

『自分の畑』（自己的園地） 版本及び目次

晨報社『自己的園地』 民國 12 年 9 月 20 日初版 同 14 年 5 月 10 日六版 晨報社叢書第十一種
人民文學出版社 1988 年 4 月北京初版排印 「中国現代文学作品原本選印之一」、與『雨天的
書』合訂本

北新書局『自己的園地』民國 16 年 2 月刊

実用書局 1972 年 10 月據 1929 年 7 月北新書局 12 版影印本

岳麓書社 1987 年 7 月據 1935 年 10 月北新書局 17 版影印本

目次中、文章のタイトルの日本語訳の後に括弧に入れたのは原文の篇題で、日本語訳と同じになるものは省いた。

序	(14)
自分の畑（自己的園地）十八篇 一九二二年一月より十月まで	
一 自分の畑（自己的園地）	(16)
二 文芸上の寛容（文藝上の寛容）	(18)
三 国粹と欧化（國粹與歐化）	(20)
四 貴族的と平民的（貴族的與平民的）	(22)
五 詩の効用（詩的效用）	(24)
六 古文学（古文學）	(27)
七 文芸の統一（文藝的統一）	(29)
八 文芸上の異物（文藝上の異物）	(31)
九 神話と伝説（神話與傳説）	(34)
十 歌謡（歌謡） → 『読書雑記』 第二卷	
十一 なぞなぞ（謎語）	(37)
十二 小詩について（論小詩）	(40)
十三 情詩（情詩） → 『読書雑記』 第三卷	
十四 『不思議の国のアリス』（阿麗思漫遊奇境記） → 『読書雑記』 第三卷	
十五 『沈淪』 → 『読書雑記』 第三卷	
十六 『ワイルド童話』（王爾德童話） → 『読書雑記』 第三卷	
十七 『クオ・ヴァ・デイス』（徧往何處去） → 『読書雑記』 第三卷	
十八 『ドン・キホーテ』（魔俠傳） → 『読書雑記』 第三卷	

オアシス（綠洲）十五篇 一九二三年一月より七月まで

- オアシス序 (45)
- 一 『鐔百姿』 →『読書雑記』第二卷
- 二 ファーブル『昆虫記』（法布耳『昆蟲記』） →『読書雑記』第二卷
- 三 猥褻論 (46)
- 四 文芸と道德（文藝與道德） (48)
- 五 『児童を謳へる文学』（『歌詠兒童的文学』） →『読書雑記』第三卷
- 六 『おらが春』（『俺的春天』） →『読書雑記』第三卷
- 七 児童劇（兒童劇） (53)
- 八 おもちゃ（玩具） (55)
- 九 児童の書物（兒童的書） →『読書雑記』第三卷
- 十 『鏡花縁』（鏡花縁） →『読書雑記』第五卷
- 十一 『古い夢』（舊夢） (57)
- 十二 『世界語読本』（世界語讀本） →『読書雑記』第三卷
- 十三 『結婚の愛』（結婚的愛） →『読書雑記』第三卷
- 十四 『愛の創作』（愛的創作） →『読書雑記』第三卷
- 十五 『夢』 →『読書雑記』第三卷

雑文二十篇

- 文芸批評雑話（文藝批評雜話） 一九二三年二月 (59)
- 地方と文芸（地方與文藝） 同年三月 (63)
- 三人の文学者の記念（三個文學家的紀念） 一九二一年十一月 (65)
- 詩人シェリーの百年忌（席烈的百年忌） 一九二二年七月 (68)
- 森鷗外博士 同年七月 (71)
- 有島武郎 一九二三年七月 (74)
- 日本の諷刺詩（日本的諷刺詩） 同年五月 (76)
- ギリシアの小詩（希臘的小詩） 同年七月 (80)
- 児童の文学（兒童的文学） 一九二〇年十月 (84)
- 呂坤の『演小兒語』（呂坤的『演小兒語』） 一九二三年四月 →『読書雑記』第三卷
- 『童謡大観』を読む（讀『童謡大観』） 同年三月 →『読書雑記』第三卷
- 『各省童謡集』を読む（讀『各省童謡集』） 同年五月 →『読書雑記』第三卷
- エロシェンコ君を送る（送愛羅先珂君） 一九二二年七月 (91)
- エロシェンコ君を想う（懷愛羅先珂君） 同年十一月 (93)
- 再びエロシェンコ君を送る（再送愛羅先珂君） 一九二三年四月 (95)
- 懐旧（懷舊） 一九二二年八月 (97)

懐旧の二（懷舊之二）	一九二二年九月	(99)
学校生活の一葉（學校生活之一葉）	同年十一月	(101)
山中雜信（山中雜信）	一九二一年六月より九月まで	(103)
夏の夜の夢（夏夜夢）	一九二二年八月	
序言		(112)
一、統一局		(113)
二、長毛		(114)
三、詩人		(115)
四、狒々の出檻（狒々之出籠）		(116)
五、湯餅會		(118)
六、試験（考試）		(120)
七、初恋（初戀）		(122)
八、左官屋（泥水匠）		(124)
九、詩話		(125)
娛園（娛園）	一九二三年三月	(126)
道を探す人（跋に代える）	徐玉諾君に贈る（尋路的人 代跋）	(128)
挿画七葉	みな省略	

北新書局版『自分の畑』 「茶話」 一九二七年二月初版

「自分の畑」十八篇と「オアシス」十五篇は再録、「雑文」二十篇に代えて「茶話」二十三篇を補入。

北新書局版『自分の畑』 はしがき		(129)
茶話 民国十四年（一九二五）九月より民国十五年八月まで		
茶話		(130)
一 抱犢谷の伝説（抱犢固的傳説）		(131)
二 永楽の聖旨（永樂的聖旨）		(133)
三 『保越録』 → 『読書雑記』 第二卷		
四 芳町		(134)
五 蛮女の情歌（蠻女的情歌）		(135)
六 『艶歌選』 → 『読書雑記』 第二卷		
七 明訳『イソップ寓言』（明譯伊索寓言） → 『読書雑記』 第三卷		
八 再び『イソップ』について（再關於伊索） → 『読書雑記』 第三卷		
九 『遵主聖範』 → 『読書雑記』 第一卷		
附録 「再論遵主聖範訳本」（陳垣）（存目）		

「三論遵主聖範訳本」（張若谷）（存目）	
十 セルヴァンテス（塞文狄斯）	(136)
十一 和魂漢才	(138)
十二 死霊の帰宅と水買い（回喪與買水）	(139)
十三 ジョン・ボール（約翰巴耳）	(141)
十四 花煞	(143)
附録 「結婚と死」（結婚與死）（順風）	(145)
十五 爆竹	(148)
十六 心中 →『澤瀉集』	
十七 ギリシアの女詩人（希臘女詩人）	(150)
十八 『馬琴日記抄』 →『読書雜記』第四卷	
十九 牧神の恐怖（牧神之恐怖）	(153)
二十 文人の娼妓観（文人之娼妓観）	(154)
二十一 菱の実（菱角）	(156)
二十二 瘡の憑物（瘡鬼）	(158)
二十三 おもちや（耍貨）	(159)
挿画五葉 みな省略	